

※ 最初に、貴医療機関の基本的な情報を記入してください。			
電話番号		ファクス番号	
医療機関名			
住所	〒		

<Ⅰ：貴施設の概況について>

問1 貴施設の開設者につき、組織分類として該当するものをお選びください。(○は1つだけ)			
01 国	02 公立	03 公的	04 社会保険関係団体
05 医療法人	06 個人	07 その他の法人	

問2 貴施設が受けている各種承認につき、以下から該当するものをお選びください。(○はいくつでも)	
01 高度救命救急センター	02 救命救急センター
03 災害拠点病院	04 へき地医療拠点病院
05 総合周産期母子医療センター	06 地域周産期母子医療センター
07 小児救急医療拠点病院	08 特定機能病院
09 地域医療支援病院	
10 専門病院	
※主として悪性腫瘍、循環器疾患等の患者を入院させる保険医療機関であって、高度かつ専門的な医療を行っているものとして地方厚生(支)局長に届け出たもの	
11 DPC 対象病院	12 DPC 準備病院
13 上記のいずれも該当しない	

問3 貴施設の標榜診療科につき、以下から該当するものをお選びください。(○はいくつでも)				
01 内科	02 皮膚科	03 小児科	04 精神科	05 外科
06 泌尿器科	07 脳神経外科	08 整形外科	09 眼科	10 産婦人科・産科
11 リハビリテーション科	12 放射線科	13 麻酔科	14 救急科	
15 歯科(歯科口腔外科等含む)	16 その他()			

<Ⅱ：貴施設における薬剤師の各業務の実施状況等について>

問4 貴施設における平成27年7月の1か月間の処方箋枚数をご記入ください。					
① 外来の院外処方箋		枚	② 外来の院内処方箋		枚
③ 入院患者の処方箋		枚			

〈Ⅲ：各診療報酬項目の施設基準の届出状況及び算定件数等について〉

問5 以下の施設基準等につき、「届出があるもの」の該当数字を○で囲んでください。
届出がある施設基準等については、「届出時期」（最初に届出をした時期）及び平成 27 年 7 月の 1 ヶ月間における算定件数をお答えください。
※患者 1 人につき 1 件と数えてください。

施設基準等	届出の状況		算定件数
	届出があるもの	届出時期（初回）	（期間：平成 27 年 7 月）
01 総合入院体制加算 I	01	平成（ ）年（ ）月	件
02 超急性期脳卒中加算	02	平成（ ）年（ ）月	件
03 緩和ケア診療加算	03	平成（ ）年（ ）月	件
04 精神科リエゾンチーム加算	04	平成（ ）年（ ）月	件
05 栄養サポートチーム加算	05	平成（ ）年（ ）月	件
06 医療安全対策加算 1	06	平成（ ）年（ ）月	件
07 医療安全対策加算 2	07	平成（ ）年（ ）月	件
08 感染防止対策加算 1	08	平成（ ）年（ ）月	件
09 感染防止対策加算 2	09	平成（ ）年（ ）月	件
10 後発医薬品使用体制加算 1	10	平成（ ）年（ ）月	件
11 後発医薬品使用体制加算 2	11	平成（ ）年（ ）月	件
12 病棟薬剤業務実施加算	12	平成（ ）年（ ）月	件
13 ウイルス疾患指導料 2	13	平成（ ）年（ ）月	件
14 がん患者指導管理料 3(200 点)※	14	平成（ ）年（ ）月	件
15 外来緩和ケア管理料	15	平成（ ）年（ ）月	件
16 移植後患者指導管理料 1	16	平成（ ）年（ ）月	件
17 移植後患者指導管理料 2	17	平成（ ）年（ ）月	件
18 介護支援連携指導料	18	平成（ ）年（ ）月	件
19 がん治療連携管理料	19	平成（ ）年（ ）月	件
20 がん診療連携拠点病院加算	20	平成（ ）年（ ）月	件
21 薬剤管理指導料	21	平成（ ）年（ ）月	件
22 在宅患者訪問薬剤管理指導料	22	平成（ ）年（ ）月	件
23 調剤技術基本料	23	平成（ ）年（ ）月	件
24 外来化学療法加算	24	平成（ ）年（ ）月	件
25 無菌製剤処理料	25	平成（ ）年（ ）月	件
26 抗精神病特定薬剤治療指導管理料	26	平成（ ）年（ ）月	件

<Ⅳ：病棟薬剤管理指導業務等の実施状況について>

問6 (問5で「12 病棟薬剤業務実施加算」の届出をしていると回答された方)
病棟薬剤業務を実施することでどのような効果がありましたか。(〇はいくつでも)

- 01 患者の薬に関する知識とコンプライアンスが上昇した
- 02 医師の業務負担が減少した
- 03 看護職員の業務負担が減少した
- 04 薬剤関連のインシデントが減少した
- 05 薬物治療の質が向上した
- 06 患者のQOLが向上した
- 07 薬剤種類数が減少した
- 08 その他 ()

問7 (問5で「12 病棟薬剤業務実施加算」の届出をしていないと回答された方)
病棟薬剤業務の届出の予定はありますか。(〇はいくつでも)

- 01 届出に向けて準備中である
- 02 届出の予定はあるが、目処は立っていない
- 03 必要な業務と認識しているが、病院の体制が整っておらず、現時点で届出予定はない
- 04 当院では必要ない業務と考えており、届出予定はない
- 05 その他 ()

問8 (問5で「12 病棟薬剤業務実施加算」の届出をしていないと回答された方)
病棟薬剤業務の届出をしていない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

- 01 薬剤師の人数が不足しているため
- 02 病棟以外(調剤・製剤、外来化学療法、手術室など)の業務負担が大きい
- 03 病棟専任薬剤師による病棟業務の実施時間が週20時間に満たないため
- 04 薬剤管理指導以外の病棟薬剤業務のニーズが少ないため
- 05 その他 ()

<薬剤を使用する上で特に安全管理のための手続が必要な薬剤に関してお伺いします。>

問9 胎児への曝露防止のため医療機関で安全管理手順等の実施が求められている薬剤としてサリドマイド、レナリドミド、ポマリドミドがありますが、これらの薬剤を採用していますか(〇は1つだけ)

- 01 採用している → (品目名)
- 02 採用していない

問10 (問9で「01 採用している」と回答された方)
これらの薬剤について、薬学的管理・指導を実施する場合、通常の薬剤管理指導業務に比べて負担を感じますか。(〇はいくつでも)

- 01 かなり負担を感じる
- 02 負担を感じる
- 03 あまり負担を感じない
- 04 全く負担を感じない

問11 (問10で「01 かなり負担を感じる」「02 負担を感じる」と回答された方)
どのような点で負担を感じますか。(〇はいくつでも)

- 01 患者への指導等に通常の業務に比べ多くの時間を要すること
- 02 安全管理手順・適正管理手順を遵守して、医薬品を管理する必要があること
- 03 多職種と連携して指導等を実施すること
- 04 その他 ()

問 12 (問 9 で「O2 採用していない」と回答された方) それはなぜですか。(Oはいくつでも)

- O1 対象患者がないため
- O2 対応できる医師がないため
- O3 採用したいが、職員の負担を考えると、安全管理体制の確保が困難であるため
- O4 その他 ()

問 13 血液検査等の定期的なモニタリングが必要な治療抵抗性統合失調症の治療薬としてクロザピンがありますが、当該薬剤を採用していますか。(Oは 1 つだけ)

- O1 採用している
- O2 採用していない

問 14 (問 13 で「O1 採用している」と回答された方)

当該薬剤の薬学的管理・指導を実施する場合、通常の薬剤管理指導業務に比べて負担を感じますか。(Oはいくつでも)

- O1 かなり負担を感じる
- O2 負担を感じる
- O3 あまり負担を感じない
- O4 全く負担を感じない

問 15 (問 14 で「O1 かなり負担を感じる」「O2 負担を感じる」と回答された方)
どのような点で負担を感じますか。(Oはいくつでも)

- O1 患者への指導等に通常の業務に比べ多くの時間を要すること
- O2 安全管理手順・適正管理手順を遵守して、医薬品を管理する必要があること
- O3 多職種と連携して指導等を実施すること
- O4 その他 ()

問 16 (問 13 で「O2 採用していない」と回答された方)
それはなぜですか。(Oはいくつでも)

- O1 対象患者がないため
- O2 対応できる医師がないため
- O3 職員の負担を考えると、安全管理体制の確保が困難であるため
- O4 その他 ()

問 17 医薬品の安全管理体制の確保に関する診療報酬上の評価についてご意見等ありましたらご記載ください。

--

<V：薬剤師による処方適正化等について>

<p>問 18 本調査票の到達以降に、薬剤師の介入により処方適正化を実施した入院患者 1 名について、下記項目をご記入ください。 ※「薬剤師の介入により処方適正化を実施した」とは、持参薬管理や病棟での薬剤管理指導業務、カンファレンス等で医師に対して処方提案して採用された場合が該当します。</p>	
① 患者の性別	01 男性 02 女性
② 患者の年齢	01 9歳以下 02 10代 03 20代 04 30代 05 40代 06 50代 07 60代 08 70代 09 80代以上
③ 病床区分	01 一般病床 02 精神病床 03 療養病床 04 その他 ()
④ 入院時に服用していた薬剤種類数	01 1種類 02 2~3種類 03 4~6種類 04 7~8種類 05 9~10種類 06 11種類以上
⑤ どのような観点で処方適正化を実施しましたか。 (〇はいくつでも)	01 重複投薬 02 不必要な多剤併用 03 副作用発生によるもの 04 相互作用のため 05 腎機能低下による減量 06 肝機能低下による減量 07 処方意図不明のため、薬剤中止 08 治療効果不十分のため、増量若しくは薬剤追加 09 コンプライアンスの低下のため 10 その他 ()
⑥ どのような方法で処方適正化を実施しましたか。 (〇はいくつでも)	01 入院時持参薬管理における服用薬の管理で発見し、医師に処方提案すること 02 入院前外来持参薬管理における服用薬の管理で発見し、医師に処方提案すること 03 処方適正化委員会等、医師、薬剤師等の多職種カンファレンスで処方提案すること 04 入院中の薬剤管理指導業務等、上記取組以外のタイミングで処方提案すること 05 その他 ()
⑦ ⑥のうち、どのような方法が最も効果的だと思いますか。 (〇は1つだけ)	01 入院時持参薬管理における服用薬の管理で発見し、医師に処方提案すること 02 入院前外来持参薬管理における服用薬の管理で発見し、医師に処方提案すること 03 処方適正化委員会等、医師、薬剤師等の多職種カンファレンスで処方提案すること 04 入院中の薬剤管理指導業務等、上記取組以外のタイミングで処方提案すること 05 その他 ()
⑧ 薬剤師の介入による <u>処方適正化</u> によって、適切な薬物療法や医療費の適正化における効果はありましたか。 (〇は1つだけ)	01 あった 02 なかった 03 わからない
⑨ ⑧で(「01 あった」と回答された方)どのような効果がありましたか。 (〇はいくつでも)	01 患者の薬に関する理解とコンプライアンスが上昇した 02 在院・在室日数が減少した 03 副作用の回避に寄与した 04 薬剤費の削減に寄与した 05 患者の治療効果があがった 06 退院後の適切な薬物療法の円滑な移行ができるようになり、地域の薬局との連携が深まった 07 特に効果はなかった 08 その他 ()

<VI：保険薬局との連携状況等について>

問 19 院外処方箋を発行する際、薬局に対して処方箋以外の情報提供をしていますか。(○は 1 つだけ)

- 01 はい 02 いいえ

問 20 (問 19 で「01 はい」と回答された方)
その情報はどのような手段で提供していますか。(○はいくつでも)

- 01 お薬手帳
02 処方箋以外の紙媒体
03 電話等
04 その他 ()

問 21 (問 19 で「01 はい」と回答された方)
どのような情報を提供していますか。(○はいくつでも)

- 01 検査値の情報
02 病名を含めた医師の診断内容
03 処方された薬剤に関して、医療機関の医師又は薬剤師が患者に対して説明した内容
04 院内で使用(投与)した医薬品に関する情報
05 投与された抗がん剤等の薬剤に関する情報
06 その他 ()

問 22 (問 19 で「01 はい」と回答された方)
どのような患者の場合に、上記の情報提供を実施していますか。(○はいくつでも)

- 01 全ての患者に実施している
02 抗がん剤を服用している患者
03 特に安全管理が必要な薬剤が投与されている患者
04 コンプライアンスが悪い患者
05 多剤併用患者
06 投与方法が難しい(説明が必要な)薬剤が投与されている患者
07 その他 ()

問 23 (問 19 で「01 はい」と回答された方)
情報提供した薬局に対し、服薬指導等の内容のフィードバックを求めていますか。(○は 1 つだけ)

- 01 求めている 02 求めていない
03 その他 ()

問 24 (問 23 で「01 求めている」と回答された方)
薬局に情報提供し、フィードバックを求めることでどのような効果がありましたか。(○はいくつでも)

- 01 患者の薬に関する理解とコンプライアンスが上昇した
02 副作用の減少と早期発見につながった
03 自宅療養中の患者の情報が正確に分かるようになり、医師の業務負担が軽減した
04 薬局からの処方提案等により、薬剤種類数が減少した
05 地域の薬局との連携が深まった
06 その他 ()

問 25 薬局から提供された情報は、どのように取り扱っていますか。(○は 1 つだけ)

- 01 薬局から直接処方医に提供
02 薬剤部で共有してカルテ(電子カルテを含む)に載せている
03 薬剤部で共有して処方医に提供している
04 その他 ()

問 26 貴施設では平成 27 年 7 月中に退院時共同指導料を算定しましたか。(○は 1 つだけ)

- 01 算定している ⇒ () 件
- 02 算定していない
- 03 分からない

問 27 (問 26 で「01 算定している」と回答された方)
退院時共同指導に貴施設の薬剤師は参加していますか。(○は 1 つだけ)

- 01 参加している ⇒ () 件
- 02 参加していない
- 03 分からない

問 28 (問 26 で「01 算定している」と回答し、且つ問 27 で「02 参加していない」と回答された方)
それはなぜですか。(○はいくつでも)

- 01 ニーズがないため
- 02 日程が合わないため
- 03 人数不足のため
- 04 業務が多忙で参加できないため
- 05 診療報酬上算定要件となっていないため
- 06 その他 ()

問 29 (問 27 で「01 参加している」と回答された方)
参加することのメリットは何ですか。(○はいくつでも)

- 01 外来通院や在宅での薬物治療に移行できる割合が高まった
- 02 患者の薬に関する理解とコンプライアンスが向上した
- 03 他職種の業務負担が軽減した
- 04 副作用の減少と早期発見につながった
- 05 地域の薬局との連携が深まった
- 06 その他 ()

〈Ⅶ：その他〉

問 30 その他、薬剤師業務に関する診療報酬上の評価について、ご意見等ございましたらご記入ください。

質問は以上です。
調査にご協力いただき、誠にありがとうございました。